



平成28年度 まちづくり事業計画を決定

課題解決に向け、女性代議員を増強！



平成28年5月22日午後16時から金浦公民館で開催された代議員総会において、平成27年度事業報告及び会計報告に続き、平成28年度事業計画並びに予算案が審議され賛成多数で了承されました。

今年度は、地区の皆様から頂いているアンケート調査に基づく各種課題の解決を加速させるため、金浦小学校PTA、社会福祉協議会等から新たに女性代議員10名に加わって戴き、「女性ならではの視点も加えて計画を推進することとし、その計画の概要は、次のとおりとなっています。

1 平成28年度事業計画の概要

(1) 今年度新たに取り組む施策

皆が、安全で安心して生活できる地域づくりを進めるために、当協議会も笠岡市が企画している施策とタイアップして進めることとします。具体的には、企画政策課の「地域起こし活動」や環境課が計画しているゴミの減量化や吉田川流域の美化等の実践に、積極的に関わっていくこととしています。

(2) 前年に引き続き、地域住民意向調査に基づいた課題解決を加速させること

(ア) 企画部会

27年度からスタートさせた、公民館活動の協賛・支援については、地区民体育大会、芸能文化祭に留まらず、敬老会や各種サロン活動にも拡充していくことを検討し、実施します。

買物支援事業(買物タクシーの運行)について、今年度は、1地区の試行に留まったが、好評を戴いているため、引き続き実施すると共に、拡大化も図っていきたい。またこれら以外に、新しい企画についても積極的に検討を進める予定です。

(イ) 防災部会

さらに防災・減災意識を啓発していくため、「防災研修・訓練」を各地区持ち回り方式により、継続して実施することとしたい。

また、『ご存じですかVI・自主防災組織活動とは』で述べている各各地区の「自主防災会」等との連携を強化し、地域ごとのコミュニティの醸成と共に、防災資機材の充実化も図っていく。

(ウ) 広報部会

「防災研修・訓練」や「環境問題」に関する講習会の機会を活用させていただき、地域の方々の『まちづくり活動』等に対するご意見やご要望をお聞きし、広報活動を含めて今後のまちづくり活動に生かしていく。



(エ) 交通・防犯部会

27年度から検討してきた、小学校下校時を中心とした「見守り活動」を実践すると共に、子供110番協力家庭の更新を進めていく。加えて、前年に継続して通学路を主体とした道路の安全対策に取り組む。

(オ) 環境部会

ゴミの減量化、環境美化を中心として、休耕地・廃屋処理等等地域の環境改善に関する課題解決を進めていく。

また新しく、独居高齢者の緊急時連絡体制整備等の福祉環境改善にも取り組む予定。



2 平成27年度事業報告の概要

(1) 企画部会

住民意向調査で、皆様から戴いているご意見、ご要望253件についてを再精査して、1件でも多くの課題解決に向けて取り組んだ。また、懸案であった公民館事業のうち、地区民体育大会及び芸能文化祭に参画し、まちづくり自治協議会の認知度向上にも貢献した。

さらに、袖解地区に対し、買物支援事業として福祉(買物)タクシーの運行を試行的に実施したところ、好評を得ている。

(2) 防災部会

地区毎に、地域の特情に合わせて防災訓練や研修を実施した。具体的には、

- * 生江浜地区 H27,7,26 防災研修会と初期消火訓練 参加者70名
- * 金浦鉄北・鉄南合同 H27,11,8 防災研修会(AED含む)と初期消火訓練 参加者105名
- * HUG(ハグ)研修会 H28,2,16 参加者 まちづくり自治協議会代議員 26名

※HUG(ハグ)については、8ページに関連記事を記載しています

平成28年3月に、既発行の『災害時緊急避難場所一覧表』を見直して、全戸に配布すると共に前年に引き続き、各地区自主防災機関に対し、発電機や脚立など防災資機材を追加配備した。

(3) 広報部会

広報誌「まちづくりかなうら」を発行し、期間中の活動状況をお知らせすると共に地域の皆様に、知っておいて欲しい情報等を提供した。

(4) 交通・防犯部会

小学校の下校時を中心とした見守り活動の手法等、並びにこども110番協力家庭の更新について協議を進めた。また、地域の交通事故”ゼロ”を目指して、通学路を中心に「道路等の安全確保」のために、広報誌第3号で紹介したとおり、側溝転落防止柵・ガードレール新設やカーブミラーの改修他、各種関係設備の改良を進めた。

- * 国道2号線から県道289号線へ、大型車両の進入禁止表示を行い、同車両の誤進入を防ぐように標識を改良した。



拡大



* 国道2号線から県道289号線への歩道改良(側溝へのおおい蓋の新設)



改良後



* 新川保育園付近通学路側溝の改修
(側溝への警告標改修)



改良後



* ”子供110番”掲出新看板の様式を決定

金浦小学校区内の子供たちの「安全確保」に向けて、「子供110番の家」を設置して10年余り経過したため、看板類の老朽化が目立つようになりました。この度、学校・PTA・まちづくり協議会で協議をおこない、右に示した新しい看板を設置しますので、ご紹介します。



(5) 環境部会

(ア) 金浦地区を流れる「吉田川」及び「金浦湾」の美化推進

ゴミポイ捨て防止啓蒙看板を28年度上期中に設置し、不法投棄やポイ捨てしづらい環境づくりに取り組んでいます。

(イ) 笠岡市環境課と連携し、「環境問題」に対する関心を高めていただく活動を推進する。

環境部会メンバー及び金浦各地区に対する「ゴミ減量化出前講座」を実施

* 環境部会メンバー	H27,11,6	参加者	11名
* 吉浜地区	H27,5,17	参加者	19名
* 生江浜地区	H27,6,7	参加者	54名
* 相生地区	H27,7,26	参加者	26名

(ウ) 金浦の各地区の実情に応じた、「環境問題」に対する意識の高揚を図るため、現在行われている地区毎の環境美化活動の日程や手法等の情報の収集を行うとともに、「有料の除草」や「花壇の整備」についても、導入の可否を含めて精査を行っています。

* 金浦鉄北・八幡神社参道入り口付近

側溝のおおい蓋改修に併せて、ゴミ分別収集場所屋根の新設



※ゴミ分別収集場屋根は、市からの補助金等により宮の下町内会で施工

(6) 各種打合せ会議等の開催状況

代議員総会	1回	(H27,5)
役員会・理事会	3回	(H27,5・7・8)
部会長連絡会	2回	(H28,3)
企画部会	5回	(H27,6・8・10・12・H28,2)
防災部会	4回	(H27,6・8・10・12)
広報部会	6回	(H27,5・6・8・9・11・H28,3)
交通・防犯部会	5回	(H27,6・8・10・12・H28,2)
環境部会	5回	(H27,6・9・11・H28,1・3)



3 平成27年度まちづくり自治協議会決算報告と平成28年度予算

(数値単位:円)

収支区分	平成27年度		平成28年度 予算額 C	増減比較		備考
	予算額 A	決算額 B		B - A	C - B	
【収入の部】						
収入計	1,825,000	1,824,860	1,806,670	△ 140	△ 18,190	
笠岡市交付金	1,814,000	1,814,000	1,803,000	0	△ 11,000	
前年度繰越金	10,696	10,696	3,509	0	△ 7,187	
その他収入	304	164	161	△ 140	△ 3	
【支出の部】						
経費計	1,825,000	1,821,351	1,806,670	△ 3,649	△ 14,681	
人件費	800,000	600,000	800,000	△ 200,000	200,000	事務局手当他
運営費	507,000	66,437	502,000	△ 440,563	435,563	
備品購入費	100,000	0	200,000	△ 100,000	200,000	プロジェクター、スクリーン購入等
食糧費	30,000	21,300	50,000	△ 8,700	28,700	会議お茶代
事務費	377,000	45,137	252,000	△ 331,863	206,863	コピー用紙、トナー他
活動費	518,000	1,154,914	504,670	636,914	△ 650,244	<ul style="list-style-type: none"> ┌ 防災訓練、研修会 └ 広報誌、公民館事業共催
活動費	250,000	371,946	390,000	121,946	18,054	
備品購入費	268,000	782,968	114,670	514,968	△ 668,298	<ul style="list-style-type: none"> ┌ 発電機、保管庫他 └ 防災資機材購入等
【差引残高】	0	3,509	0	3,509	△ 3,509	
笠岡市返還金	0	0	0	0	0	
次年度繰越金	0	3,509	0	3,509	△ 3,509	

平成28年度 金浦地区まちづくり自治協議会、代議員・役員の紹介

代議員・役員

地区・団体	番号	代議員・役職			部会毎の担務内訳					備 考
		前年度代議員	本年度交代・ 新任の代議員	役 員	企画 部会	防災 部会	広報 部会	交通 防犯	環境 部会	
金浦鉄南	1	松成一誠				○				部会担務欄の ○印は、所属する部会 を示す
	2	杉原輝彦	門田里香		○					
	3	筒井清人		副会長(理事)			◎			
	4	谷安信							○	
	5	八杉朋幸						○		
金浦鉄北	6	谷本弘太郎		理 事	○					◎印は部会長 ●印は副部会長
	7	小川淳志				○				
	8	笠原 貢					○			
	9	長安正巳							○	
吉 浜	10	枝廣 徹						◎		
	11	岡本重文		会長(理事)	○					
	12	高橋章治					○			
	13	北川正之		監 事		○				
生江浜	14	石井高志						○		
	15	枝広一芳							○	
	16	樋之津孝雄		理 事	○					
	17	藤井一男				○				
旭が丘	18	藤井浩一郎						○		
	19	松浦広治					○			
	20	倉佐剛樹							○	
	21	山名 修		理 事					●	
大 河	22	高橋邦彦		監 事		◎				
	23	溝渕律雄							●	
	24	亀岡智宏			●					
	25	田淵 進						●		
相 生	26	清水良美							○	
	27	塩飽直紀			◎					
	28	藤原輝夫						○		
	29	塩飽義史		理 事		○				
金浦公民館	30	塩飽 璋					○			
	31	平井輝久		副会長(理事)					◎	
	32	丸山悦二			○					
	33	八杉昌一郎						○		
社会福祉協議会	34	氷上 浩	高細道昭			○				
	35	長谷川泉					○			
金浦小PTA	36	清水正毅		理 事	○					
	37	—	筒井美智子		○					
消防団金浦分団	38	藤井義明		理 事	○					
	39	—	松浦香代子		○					
行政協力委員会	40	—	塩飽幸子					○		
	41	—	藤井真由美					○		
地区自主防災会	42	北村幸典		理 事		●				
	43	—	原田美佐子				○			
民生児童委員協議会	44	稲葉幸子			○					
	45	—	高田芳子			○				
愛育委員会	46	—	塩飽静江			○				
	47	—	藤井真澄					○		
栄養委員会	48	—	高浦和子					○		
	49	—	相澤麻有子			○				
更正保護女性会								○	更正保護女性会員	
地域おこし協力隊								○	笠岡市地域おこし協力隊	
事 務 局		内尾裕二								

顧問

所属・役職	氏 名	備 考
金浦保育園 園長	北村 和子	
金浦小学校 校長	岡野 紀生	
金浦中学校 校長	吉武 明博	異動による交代
笠岡学園 理事長	坂本 公明	
笠岡市議会議員	藤井 義明	
笠岡市議会議員	樋之津 倫子	
笠岡市議会議員	東川 三郎	
金浦駐在所	片山 健	異動による交代
吉浜駐在所	藤井 一	
民生児童委員協議会 会長	山本 宏	

笠岡市地区担当職員

所 属	役 職	氏 名	備 考
税 務 課	税務課長	赤田 洋二	
学校給食センター	技 師	塩飽 昌之	
長寿支援課	主任主事	川上 めぐみ	





御存じですか！ No.VI 自主防災組織活動とは



『自主防災組織』とは、災害対策基本法第5条2に規定されている、「地域住民」による任意の防災組織のことをいいます。消防組織法に定められている公共機関としての消防団や、一定の危険物を取り扱う企業等が、消防法に基づいて設置している自営消防組織とは異なります。

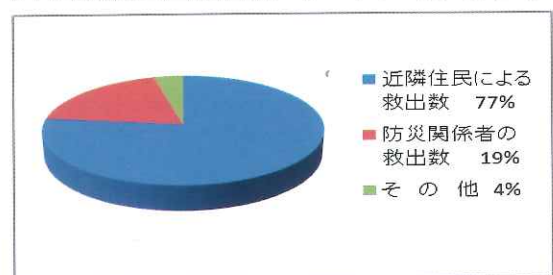
つまり当金浦地区では、町内会・自治会で組織している「自主防災会」や地域の「婦人防火クラブ」及び、まちづくり自治協議会の「防災部会」等がこれに該当することになります。

平成7年1月17日午前5時46分に発生した阪神・淡路大震災で多くの家屋が倒壊し、約15万人が生き埋めになりました。このうち約3万5千人もの方が倒壊家屋に閉じ込められ自力では脱出困難となりましたが、図に示すように、実にその77%を近隣住民が救出しました。

もちろん、自衛隊、警察、消防などの防災関係者も活躍しましたが、その数は19%に留まっています。

これは、大災害が発生した場合、いかに近隣住民の力が大切かを物語っており、この教訓を生かして、全国各地に「自主防災会」が組織されるようになってきています。

図 自力脱出困難者約35,000人の救出数内訳



また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、日本周辺における観測史上最大の地震で、発生から5年経過した平成28年2月現在でも、避難している人の数は174万人を超えており、世界銀行の推計では、自然災害による経済損失が史上1位となっています。このような甚大な被害をもたらせた大地震でも犠牲者がゼロだった地域があったことをマスコミ報道等でご存じの方もいらっしゃると思います。

それは・「岩手県・洋野町」です。洋野町八木地区では、町内で唯一防波堤が整備されていないにもかかわらず、人的被害はゼロでした。これは、昭和三陸津波が襲った3月3日に毎年「防災訓練」を実施し、『逃げる』ことを徹底してきたことに加えて、平成8年以降設置された「自主防災組織」の高台に上る避難路の除草や整備などの活動により住民意識を高めてきたことが、功を奏したと云われています。

さらに、本年4月発生 of 熊本地震では、14日の前震に加え16日の本震でも気象庁の震度階級で最も高い深度7が2回も発生したうえ、その後の余震の発生回数も、過去に経験したことがないほど多岐にわたっていて、復旧・復興の諸作業を妨げていることは既に皆様ご存じのとおりです。

被災した熊本・大分地区の、1日も早い復興を祈念するとともに、私たちの地区でも、今まで以上に、「各地区の自主防災会」、「婦人防火クラブ」とまちづくり自治協議会の防災部会等が互いに協力し、これらの教訓を生かした「防災・減災活動」に努める必要を痛感しています。

金浦地区自主防災会の紹介

自主防災会区分	責任者(地区会長)	世帯数
金浦鉄南地区	筒井 清人	263
金浦鉄北地区	谷本 弘太郎	244
吉浜北地区	枝広 一芳	158
吉浜南地区	北川 正之	149
生江浜地区	樋之津 孝雄	491
旭が丘地区	高橋 邦彦	336
大河地区	塩飽 義史	90
相生地区	高細 道昭	142

※ 世帯数は、平成28年3月時点の数値

視察研修に行ってきました！！

まちづくり活動の先進地『島根県雲南市日登地区』を訪問

平成27年12月16日、笠岡市協働のまちづくり課主催の視察研修に参加して「島根県雲南市日登地区」を視察してきましたので、この地区の活動状況の概要を報告します。

雲南市は、旧5町1村が合併して平成16年11月に誕生しましたが、以来「市民が主役の自治のまち」を標榜として市政が運営されています。特に、「日登地区」では、雲南市発足後直ちに地域自主組織を地区の公民館と自治会を母体として立ち上げ、まちづくり活動も10年以上経過している先進地です。

1 金浦地区と日登地区の比較

比較項目	笠岡市		雲南市	
	全体	金浦地区	全体	日登地区
世帯数(世帯)	19,676	1,723	12,905	419
人口(人)	54,225	5,014	41,917	1,581
行政区(自治会)数	—	77	—	21
代議員数(委員数)	—	39	—	90
会計規模(万円/年)	—	180	—	1,600
まちづくり発足年月	—	H23,9	—	H17,6
高齢化率(%)	31.0	—	32.9	—

※上段の数値は、H22国勢調査をベースに計上

日登地区との基礎的な比較値は、上段に示したとおりです。

運営方法も、地域の課題やニーズを把握したうえで、5部会に分けて各種課題解決に向けた取り組みを進める手法は、当金浦地区とはほぼ同様でしたが、その内容については3点ほど大きな違いがありました。(部会の名称とその取組内容に若干の差はあります)

2 日登地区取組の特色

(1) 各施策が単年度でなく、中期的な取り組みとなっていること

平成20年第1次地域振興5カ年計画を策定して取組を開始、その結果を踏まえ、現在第2次5カ年計画を推進中であること。

(2) 地域ぐるみで、交流産業や、日登ブランド商品の創設に取り組んでいること。具体的には、古民家を移築して田舎料理倶楽部「かやぶき」を運営すると共に「燻製玉子ラーメン」や「おろちどぶろく酒」のブランド商品等を開発・販売している。

特に「かやぶき」は、近隣の県、市町村から年間2,000人を超える訪問者となっている。

(3) 葬儀や墓地管理等を地域ぐるみで取り組んでいること

葬儀を市中の葬儀社に任せるのではなく、また少子化等に伴う墓守が困難となった世帯に対し、宗派を超えた永代供養ができる仕組み作りに、地域ぐるみで取り組んでいる。

この3点のほか、中長期的な展望から、当金浦地区でも参考になる施策もあり、今後機会をとらまえて導入することも検討していきたいと考えています。



【雲南市職員から地区活動状況の説明受け】



【古民家を移設した田舎料理店かやぶき】



【ぶどう畑から田舎料理店かやぶきを望む】



【かやぶきで提供される手作り田舎料理】



”HUG・ハグ”という手法に基づいて

災害時、まち協代議員に対する避難場所運営に係る研修会を開催

平成28年2月16日午前9時30分から金浦公民館において、まちづくり自治協議会代議員26名を集めて、災害時に設置される「避難場所」の運営を的確に行うための研修会が”HUG・ハグ”という手法に基づいて開催された。

笠岡市危機管理課から講師をお招きし、地区別にチーム編成を行って「ゲーム感覚」で避難所の運営手法を学ぶことができました。



【チーム毎に運営方の討議を進める参加者たち】

『HUG・ハグ』とは？

災害時に設置される避難所の運営をみんなで考えるために、静岡県が開発した手法です。HUGは、H(hinansyo・避難所)、U(unei・運営)、G(game・ゲーム)の頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる」という意味です。避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ねて名付けています。具体的には、避難所の体育館や教室に見立てた平面図に、避難者の年齢や性別、それぞれが抱える事情等が書かれたカードがランダムに配られ、これによりどれだけ適切に配置や対応ができるかがゲーム感覚で、疑似体験できる手法となっています。

編集後記

まちづくり協議会も発足してまもなく6年目に入るため、各部門ごとに「安全で安心して暮らせる地域づくり」を目指した活動計画を策定して取り組んでいます。その概要は、今月号冒頭でお示ししたとおりです。

4月17日には、笠岡市長、笠岡市議会議員選挙が行われ、それぞれに素晴らしい政策を掲げて、新しい選良の方々が誕生しました。まちづくりの諸施策も、笠岡市の十分な支援があってこそ円滑な推進が図れることは言うまでもありません。広報担当の代議員諸氏達は、新市長をはじめ、新しい市議会議員22名の方々の”選挙公約”の実践状況は勿論のこと、まちづくり自治協議会の活動の進捗状況についても、しっかりと見守っていく必要を感じています。